平成29年7月7日付

東愛知新聞

東三河へ先進農業視察

13日から豊橋など3市

全国農業経営コンサルタント協会

先進的な東三河の農業を学ぼうと、全国農業経営コンサルタント協会（東京都千代田区、森剛一会長）は13日から3日間、豊橋・田原・蒲郡市内の関係施設などをバスで視察する。年1回の現地研修企画で、会員40人が参加する予定だ。

同協会は農業者支援を目的に、全国の税理士や公認会計士約120人でつくる、税務の専門家集団。1993年に発足し、現在愛知県の会員は、中村浩章税理士（豊橋市三ノ輪町）ら5人。2001年から毎年、各都道府県持ち回りで現地研修旅行を続けており、今回は愛知・三重県の担当。東三河を訪れるのは初めてという。

一行は13日に豊橋駅集合。温室みかんなど扱っているJA蒲郡市総合集出荷場（同市神ノ郷町）の視察を皮切りに、トマト栽培の実証実験に取り組むデンソー豊橋事業所（豊橋市明海町）で実証ハウスを見学する。翌14日はコチョウラン栽培の松浦農園（豊橋市東七根町）、メロン・イチゴ栽培のマルカ農園（田原市池尻町）を訪れる。続いて伊勢湾フェリーで三重県入りし、有機肥料100%栽培米の田園（松阪市）も視察する予定。（藤田彰彦）

平成29年7月18日付　夕刊三重

全国の税理士41人視察

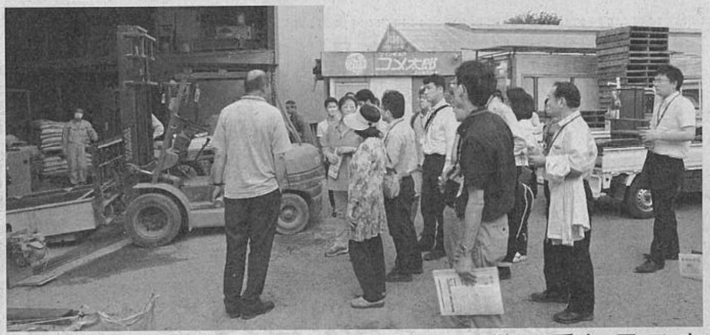
古御門ライス　ホスト役は濱口さん（尾崎久美子税理士事務所）

農業法人に関わる全国の税理士や公認会計士でつくる一般社団法人・全国農業経営コンサルタント協会（本部＝東京都、122人）がこのほど、全国有数のほ場面積を誇る松阪市八重田町の㈱古御門ライスセンター（古御門正祐社長）を視察した。

同協会では毎年1回、会員による現地研修を行っており、今回は14日に愛知、三重両県の会員がホスト役を務めた。三重県では尾崎久美子税理士事務所（松阪市五反田町）の濱口勝志税理士（41）が、ほ場面積約480㌶を耕作し、大規模農業法人として全国的に知られる同社を案内した。

この日は全国19都道県から会員41人が参加した。同社取締役で関連会社㈲田園社長の古御門侑さん（53）から、農業の担い手減少といった同社設立の背景や、農業の6次産業化やJGAP（農業生産工程管理）の認証取得といった取り組みについて聞いた。JGAP認証が、大手米卸㈱神明（本社＝神戸市）を通して大手外食チェーンへの販売につながったという。

濱口税理士は「農業に関しては税務の上で特殊なことが多く、一般の製造業や建設業、卸業などと全然違うことがある」と特殊性を強調。今回はそうした専門性を備えた税理士集団の視察だったが、「山形や新潟など米所の先生方も、これだけ大規模な所は地元にもないと驚いていた。何百軒の集落が集まって大規模にやっているのはあるが、一法人でこれだけ集約して手掛けているのは全国でも珍しい」と話していた。



古御門ライスの施設を見学する参加者ら＝八重田町で

平成29年7月15日付　中日新聞 松阪･紀勢版

松阪・紀勢版

みんなで農業盛り上げを

大規模法人から学ぶ

松阪　経営コンサル協が視察

全国農業経営コンサルタント協会（東京）の視察で、農業法人の顧問税理士ら十九都道県の約四十人が十四日、コメや大豆を栽培する松阪市八重田町の大規模農業法人、古御門ライスを訪れた。

コメを乾燥させるライスセンターを見学。食品の安全性を向上させる取り組みをしているとして取得したGAP（農業生産工程管理）の認証について、古御門侑取締役（五三）から「大手外食チェーンとの契約につながった」と説明を受けた。

森剛一会長（東京）は「大規模農業法人の事例として勉強になった」と感想。地元、松阪市岡本町の税理士浜口勝志さん（四一）は「全国の会員に三重の農業を知ってもらえた」と話した。

（沢田石昌義）

コメの大型乾燥機を見学する参加者たち＝松阪市八重田町の古御門ライスで

新築・増改築のこ
津市殿舟
ワコー
☎050